

キャラクター名
加恋・エミリア・クルト

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	17	性別	女
覚醒	命令	衝動	憎悪		初期侵食率	33%
出自	安定した家庭	経験	永劫の別れ	邂逅	主人(霧谷雄吾)	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	5	1	0			6	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
60↓	白兵	9r+2		5		フレイムタン/破壊の爪=-4+9=5
60~80	白兵	10r+2		5		フレイムタン/破壊の爪-4+9=5
80~100	白兵	9r+2		32		フレイムタン/破壊の爪/クロスバースト/FPA=-4+9+12+15=32
100↑	白兵	11r+2		43		フレイムタン/破壊の爪/クロスバースト/FPA-3+10+16+20=43

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
両親[P]	P 憧憬	N 食傷		
元カレ[N]	P 執着	N 恐怖		
桐谷雄吾[P]	P 信頼	N 隔意		
綾瀬真花[N]	P 懐旧	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
フルパワーアタック	3	4	セットアップ			自動	80↑	
効果: ラウンド中、攻+[Lv*5]								
完全獣化	1	6	マイナー			自動		
効果: シーン中【肉体】ダイス+[Lv+2]個、アイテム不可								
破壊の爪	1	3	マイナー			自動		
効果: 素手→攻+[Lv+8]、命中0、G値1								
コンセ: サラマンダー	2	2	Xジェー			シンドローム		
効果: いつもの								
クロスバースト	3	4	Xジェー			白兵	80↑	
効果: 攻+[Lv*4]、ダイス-2個								
フレイムタン	1	2	Xジェー			シンドローム		
効果: 射程視界、攻-[5-Lv]								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

プレイヤー優先で組んだので、強くないのは分かっている。
80まで何もできない人だけど、80超えても大して強くない。
コードネームは綾瀬真花との関係を水解させたいという思いから決めました。

ドイツ人の父(ITエンジニア)と日本人の母(兼業主婦)ハーフ。
一人っ子。
基本的に他人への当たりが強く、顔立ちの良さに比して男子からの人気は低い。
ふるまいに頓着しない彼氏からは顔面のみを見られていた。

綾瀬真花とは小学校からの付き合い。
高校に入ってすぐに付き合い始めていた彼氏に暴力を振るわれており、気づいた真花が別れるようすすめてきたが、加恋は彼氏に依存しており、暴力を振るわれるのは自分が悪いからと言ってきかなかった。
最終的に見かねた真花が加恋の父親に連絡。激怒した父親が彼氏の家に乗り込むなどに至った。
「真花のせいだ彼氏と父がケンカした」と真花に当たってしまい、彼女と喧嘩してしまう。
彼女と馴れ顔を合わせるのが嫌で、交通手段を電車からバスに変えた。
最終的にその彼氏とは別れ、今では綾瀬真花のおかげで助かったことを感謝している。
彼女に謝りたいと思い続けていたが機会を失い、ついに高校3年生になった。
違うクラスだった2年生を経て同じクラスとなるも、まだその関係はぎこちなかった。
そんな折、バス乗り場に放送が入った。電車が止まり、臨時バスが出る、と。
そこで加恋は真花と久々に言葉を交わすことになる。